

令和3年度「奇跡の復興米」取組紹介

ひがしにほんだいしんさい ひきいち おおつち とんだばやし つなぐ
東日本大震災の被災地・大槌町と富田林市を繋ぐ

きせき

ふっこうまい

奇跡の復興米

その苗は、東日本大震災で被災した岩手県
大槌町でガレキの中から見つかった3株の
イネを源流にもちます。津波
を奇跡的に生き残り、海水を
被った土地でも成長したその
生命力を、被災の記憶と共に
後世に伝え、防災の重要性を
考えていく取組です。



富田林市・富田林市立小学校
JA大阪南・JA大阪南青年部
がこの取り組みに参加しています

富田林市「奇跡の復興米」を
紹介するウェブページのURL

「奇跡の復興米」バケツ稻栽培セット
バケツに貼り付けたシールのイメージです

「お隣の農耕家、田植えをやせた。」

今月も六月の末。元田植えの香りが止まらない。

八月四日。田植えがまだ終わらなかった。

せせ。今は新種コロナウイルス感染症、日本本部主導の中、感染防止を目的とする田植えが田植えをやめ

田植え者、田植えは昨日より増えてるが、田植えが止まっている中で、田植えをやめよう。

私が大垣町民は三月には東日本大震災から10年。
皆田植えをやめました。

これが田植えには様々な形でこままで改めて
感想述べます。

又、田植えの存在は、毎月10月には鶴見林市様
大垣町が「連携協力による基本協定」と結びました。
今後は相互の特産品販売、地域活性化として防災教育
など、これまで以上に連携を図ることをめざします。

思ひます。

又、先ほどの田植えは日本の主食である「米文化」を体験し
て、「お隣の農耕家」をヨーロッパ
正しく学んでいた所から書いたり。

会議にて参考書。

昨年秋、朝日新聞「天草くぼ」に今秋に田植えが第一組
から小豆実験と、田植えから直接取扱っていた田植え

田植え

記載されていました。

以下に引用します。

「お隣の農耕家」が「お隣の農耕家」、田植え
「田植え」を書いたときに、いたしました。

2021年8月吉日

岐阜県大垣町

菊池

天声人語

先週、取材で訪ねた岩手県は
稲刈りの盛期だった。大垣町の
菊池妙さん(79)宅には一足先に
新米が届いた。実はこのお米、
育てられたのは750㍍離れた
大阪。ルーツは菊池さんが大震
災の年の秋に見つけた3株のイネだ▼津
波で自宅を失った菊池さんは、玄関だつ
た場所でやせた稻穂を見つけた。翌春、
地元有志らが433粒の種もみから苗を
育てた。「大垣復興米」と呼ばれるよう
になった▼自治体ぐるみで支援してきた
大阪府富田林市のボランティアたちが震
災の3年後、1ヶだけ譲り受けた。JA
とともに市内の水田で栽培し、翌年から
は市内すべての小学生が一人1個の
パケツで育て始める。そのころ大阪に在
勤していた筆者は、子どもたちの奮闘に
胸が温かくなつた▼コロナ禍の今年、パ
ケツ米は中止だ。それでも菊池さんのも
とは田を手伝つた小学生から「観察日
記」が届く。(6月7日ひとつひとつ心
をこめて植えました)。(7月5日コロナ
で外に出れないで嫌だつたけど、苗は
すぐすくのびていました)(8月30日か
かしががんばつて守つてくれたので、米
もがんばつてね)(▼菊池さんは「本当に幸せなお米さん」と言つた。
これから流れ着いた種もみが根を張り、
人ととの縁で育まれた。「人の優しさ
を教わった気がする。この年になつて、
ね」「▼大阪の田んぼで取材のたびに耳に
したのは、「震災のこと、絶対に忘れ
がう奇跡の米はじつからと根付いた。
へんか」「という決意だ。風化にあら

奇跡の復讐手本 稲村にありせて

八度目の稻村よりあがでとくじきいよ。

今度の稻村も、稻村も眞君同様コロナ禪にまか
各自の稻村の日々をつかえずに済り、多くの著書
があることと思ふ。

「百丈もいなむいへ通」^{ハセ}と書う字は「ハハ」の
字数(手数)かかることをいす。

数々の努力と心(元作)として大きな自然の力などか
ひとつに見て、おもしろい「奇跡の復讐手本」が
大ややに來たことと思ふ。

又、生徒の皆さんはこの稻作の實業が体験に感動し
新しくかみこめを見事に成りました。

又、稻作の田舎と、おひやとしているコロナは大都會
大阪も稻共の小さな田舎と非常解です。

朝まで二つの少々の所で、稻はパリソシックに
感動し乾いた田から魂を流していります。

東京には、てづくりの生活に處する稻は
多く百姓にあがれまと感動を申します。

「復讐」といふ事。

京都府太田町

菊地

一〇二年九月廿日

「奇跡の復興米」田植によせて

今年も六月の空の元、田植えの季節となりました。八度目の田植え、おめでとうございます。世の中は新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中、感染防止を充分考慮しての田植えは関係者の皆様は、昨年にも増してのご苦労がありの事と、お察し申し上げます。

私共、大槌町民も三月には東日本大震災から10年の節目を通過いたしました。

これまで、皆様には様々な形でご支援いただき改めて感謝申し上げます。

又、皆様もご存じの通り昨年10月には富田林市様と大槌町が「連携協定に関する基本協定」を結びました。今後は、相互の特産品販売・観光PR、そして防災教育など、これまで以上に“縁”を深めて参りたいと思います。

又、生徒の皆様は日本の主食である「米文化」を体験しそして「奇跡の復興米」のルーツを正しく学んでいただけたら幸いです。

余談になりますが。

昨年秋、朝日新聞「天声人語」に、今、まさに皆様が取り組んでおられる実態を、田植え1回目から3年位取材していただいた記者さんがお書きになつてくださいました。

結びとなりますが、秋には「奇跡の復興米」の豊作と「コロナの収束」を願い、ごあいさつといたします。

二〇二一年 六月吉日

岩手県 大槌町
菊池 妙

「奇跡の復興米」稻刈りによせて

八度目の稻刈り、おめでとうございます。

今年の田植え、稻刈りも昨年同様コロナ禍にあり

今日の、この稻刈りの日をむかえるに当たり、たくさん
のご苦労

があつたことと思います。

皆さんもご存じの通り「米」と言う字は「八十八」の
手数がかかると言います。

数々の苦労と心(気持)そして大きな自然の力などが
たわわに実ったことと思います。

また、生徒(児童)の皆さんはこの稻作の貴重な体験に感
謝し

新米をかみしめてみては如何でしょうか。

また、私達の日常をおびやかしているコロナは大都会
大阪も私共の小さな田舎も非常時です。

明るいニュースの少ない昨今、私はパラリソピックに
感動し、乾いた目から涙を流しています。

来年こそはマスクなしの生活に戻ることを祈り
多くの皆様に、おつかれさまで、感謝を申し上げ
ご挨拶といたします。

岩手県 大槌町

菊池 妙



喜志小学校・喜志地区の活動の様子



A man in a white short-sleeved shirt, a yellow safety vest, and a white face mask stands in a rice paddy, facing a group of children. He is gesturing with his hands as if speaking. The children, all wearing red baseball caps, are seated in a semi-circle on the ground, looking up at him. In the background, there is a large residential building complex and a green signpost. The man appears to be giving a lesson or presentation to the children.



子供たちのお手製カカシが見守り



9/14 羊絳



A photograph showing a group of people in traditional Japanese clothing, possibly a matsuri (festival), standing in a grassy field. In the foreground, a person wearing a large, dark, conical hat and a blue patterned kimono stands facing away from the camera. Behind them, a line of people in white tunics and red hats is seated or standing. The background features several traditional wooden houses with tiled roofs under a clear sky.



地域ニュース

奇跡の復興米 子供ら収穫

富田林「食べるのが楽しみ」

中田は、震災の後度に罹害せぬから、子貞大院
町の家で暮らした。吉野の街並みは、原村林立
・喜多川の田畠など、黄金色の絶景をなす。地元の
供たる元町の取り仕合を除して、収穫したごく上の部
は同町に「通称」するほか、熊本地場平成23
年で初めて熊本県農業試験場にも送付される。

恒興米は震災からの約一社だけ残して営業され
たが、7月16日に大規模倒産で、3株の種子を見
切った女性が、津波で基礎壊れたことがルーツ。同町の

そりで取る。あらゆる従業員が、市に26年、右幸恵のNPO法人からお礼として毎年、市民の小學生が植えられた。この年は、田舎町を出て、市内に移り、田舎町の名前を「田舎町」と改めることになった。

地域の人たちの協力で刈取ました



黄金色の「復興米」収穫

東日本大震災 岩手・大槌がルーツ

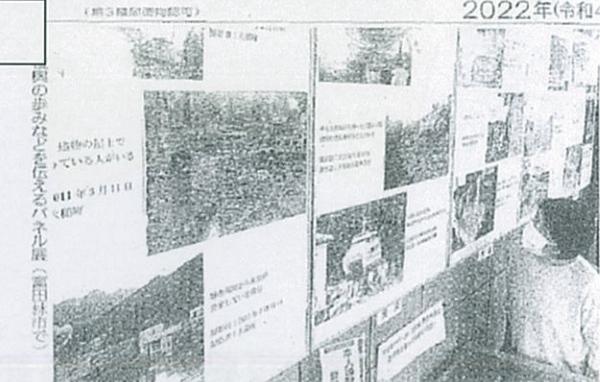
富田林



富田林市で始まった「奇跡の復興米(大槌ひめぼれ)」の刈り取り



富田林市役所でパネル展示



被災地・大槌 復興の歩み

富田林でパネル展 支援や交流振り返る

東日本大震災を振り返り、市民らに防災・減災意識を高めてもらおうと、富田林市は支援と交流を続ける被災地・岩手県大槌町の被災や復興を伝える「東日本大震災パネル展」を市役所で開いている(18日まで)。約20枚のパネル写真のほか、資料を展示。大槌町は、被災前は人口約1万6千人だったが、津波被害などで死者・行方不明、闇死が計1,286人。全家屋の約7割、4,975棟が被災した。店舗や賃貸住宅から災害公営住宅約9,000棟などへの被災町民の移住は2019年度で終わつたが、まだ約3,000人が町外に避難しているという。

富田林市は震災直後から物資、給水の支援をし、職員を長期派遣。16年の台風かかった稲穂をJ.A大阪南や学校が「奇跡の復興米」として栽培し、毎年町の学級食などに供給。20年11月には連携協定を結んだ。平野公民館は「町の復興は最優先課題。支援への感謝を忘れず、安心安全のまちづくりに努めたい」とのメッセージを寄せ、吉村謙美市長は「震災を風化させず、継承したい。展示を街への働きを考える機会に」とコメントした。

東日本大震災で津波に襲われた岩手県大槌町の住宅跡で見つかった稻穂をルーツとする「奇跡の復興米(大槌ひめぼれ)」が、米の一部は大槌町や、富田林市の田んぼで黄金色の穂をつけ、刈り取りが始まった。大震災後の支援が市内の中学校などに贈る。福わらは大阪市は大槌町と交流する天王寺動物園に

深めている。新型コロナウイルス対策でこどもの日は子どもは参加せず、地元農協の職員らで刈った。収穫したの田んぼで作付けされ、3,000kgの収穫を出し込む。22日までに刈り取りを終える計画。

市によると、約65㌶栽培は、岩手県のNPO法人「道野まごころネット」から復興支援の手として稻もみを植えや稻刈りができる

今年で8年目。JA大槌が苗方して始まり、ようになつてほしい」とコロナの収束を願つた。

東日本大震災を振り返り、市民らに防災・減災意識を高めてもらおうと、富田林市は支援と交流を続け、被災地・岩手県大槌町の被災や復興を伝える「東日本大震災パネル展」を市役所で開いている(18日まで)。

約20枚のパネル写真のほか、資料を展示。大槌町は、被災前は人口約1万6千人だったが、津波被害などで死者・行方不明、闇死が計1,286人。全家屋の約7割、4,975棟が被災した。店舗や賃貸住宅から災害公営住宅約9,000棟などへの被災町民の移住は2019年度で終わつたが、まだ約3,000人が町外に避難しているとい

富田林市は震災直後から物資、給水の支援をし、職員を長期派遣。16年の台風

を提供した。両市町で消防団や小学生が交流してきたほか、家庭の流失跡で見つ

り、市民らに防災・減災意識を高めてもらおうと、富田林市は支援と交流を続け、被災地・岩手県大槌町の被災や復興を伝える「東日本大震災パネル展」を市役所で開いている(18日まで)。

約20枚のパネル写真のほか、資料を展示。大槌町は、被災前は人口約1万6千人だったが、津波被害などで死者・行方不明、闇死が計1,286人。全家屋の約7割、4,975棟が被災した。店舗や賃貸住宅から災害公営住宅約9,000棟などへの被災町民の移住は2019年度で終わつたが、まだ約3,000人が町外に避難しているとい

「奇跡の復興米」おいしく育って 富田林

富田林市の市立守池台小学校で7日、「奇跡の復興米」の田植えがあった。5年生の児童約100人が、校内の田んぼに入り、苗を植えた。

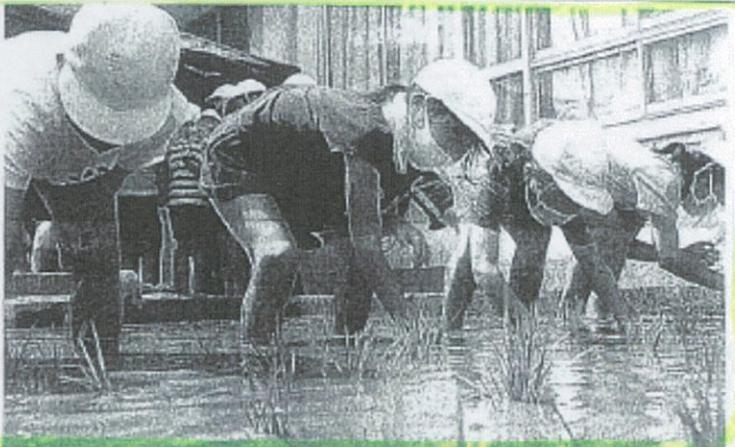
・高田林市は、2011年の東日本大震災以来、岩手県大槌町との交流を続け、両町の被災した住宅跡で鏡を付けた「奇跡の復興米」の種もみを、14年に譲り受けた。これまで市内の16小学校の5年生が、パケツでイネを育てる取り組みを続けている。

震災から10年の今年は、震災を風化させず、大槌町との絆を

さらに深めようと、4小学校の田んぼで田植えすることにした。

7日に寺池台小であった授業では、復興米の由来について学んだ後、児童は裸足になって田んぼに入っていた。女子児童は「奇跡ってすごいな。おいしく育つようにと願いを込めて植えた」と話していた。阪上佐智子校長は「復興米の田植えを通して、震災や災害に対する備えを考えるきっかけになれば」と話した。

(共十下—九)



学校内水田の
奇跡の復興米栽培が
新聞各紙にも
取り上げられました

東日本大震災の被災地から贈られた「古谷の復興米」が、今年は各校とも校内に水田を造って栽培。日々成長していく様子が、児童たちに見えていたところだ。

市内の小学校では、これまでにも復興米の栽培を

大蔵通理君(1)は「津波に負けずに生き残った種のみは奇跡。元気なお米に育つてほしい」と笑顔を見せた。

がたる被害の記憶が薄れていく感覚もある」とない風化させない心の想いで被災地での水道整備を決定。貢献は昨年、大震災70周年事業の一環として大相撲と通算選手権を連続して握り取れりと音符を意味も含めなどしている。

寺脇台小では50m×2本の花壇を水田に設置。この日は、5年生全員約100人が水をはった田で、泥に足を取られながらも壁をかぬ、丁寧に苗を植え付け

東日本大震災の津波に耐えた稻から育った初耳臘大粒の「奇跡の復興米」の苗を使った田植えが、農田林市立藤沢台小学校の田んぼで行われた。震災から10年の節目を合わせ、初めて植えた。震災の教訓を受け継ぎ、被災地との絆を深めていく所存だ。

「復興米」は、震災が起きた2011年秋に、同町内のがれきの中で自生している粗穀3株が見つかって、同町への支援活動

を賣つなど、市なうが種もみを譲り受け、JJA大阪南なうが栽培。市内の各小学校はバケツで育ててさだした。堺沢台小(ひづれの里)は「農業体験」で5年生計約80人が田植え、「復興米」の由来を教え、「復興米」で学んだ後、4人ずつ列になって田んぼに入り、苗を1丁に植え付けた。尾崎美月さん(10)は「泥にしつかり植えるのが難しかった。おいしいお米をたべさせられてほっこり」と頬を赤らめた。沢口雅彦さんは「大規模な学校とネット授業でやんばるを教えていくんだ」と語った。

月の震災から約7ヶ月後、津波で基礎部分だけを残して流された庄子真大里町の庄子跡で失った3株の櫻花がカルーツ。富田林市には、大坂町の復興支援をしてい

「奇跡の復興米」大きく実れ

富田林の小学校で田植え

「復興米」の苗を植える足利市立藤沢台小学校で

えた福から育った村人興大
船町の「奇跡の復興米」の
苗を使った田植えが、高田
市立高田小学校の田ん
ぼで行われた。震災から10
年の節目に合わせ、初めて
植えた。震災の教訓を受けて
校庭脇の被災田(15平方㍍)で
5年生計約80人が田植え
南なが栽培。市内の各小学校
学校はバケツで育ててき
た。

「小学校へネット授業で文庫するなどして、詩の大切さを教えていたんだ」と語った。

100

小学篇

画面越しにつながる

大槌 大槌・吉里吉里学園小学校部（仲詔玲子校長、児童64人）の5年生11人は9日、大槌町吉里吉里の高校で大槌町若林市藤沢台小（沢口雅蔵校長、児童435人）5年生41人とオンライン交流し、地域の特色などを讲述した。

それぞれ地域を紹介し合い、同学園は美しい自然や豪商前川喜兵衛、郷土芸能の魅力を説明した。藤沢市小は京日本大震災で被災し

た同町の住宅跡で見つかった稻穂をルーツとする「奇跡の復興米」栽培の様子を伝え、漫才も披露。画面越しに交流を楽しんだ。

中村海輝入君は「郷土芸能や学校の良さを伝えることができて良かった。いつかみんなで大駄に行って、ぜひ会いたい」と喜んだ。

大槌町と富田林市は震災の支援活動を機に交流を継続し、昨年11月に連携協力に関する基本協定を締結した。



大正十二年九月

オンラインの 交流授業の 様子を伝える 新聞記事

高田市立吉澤台小学校の民家跡で見つかった桶
と、東日本大震災で被災し
た岩手県大槌町の町立吉里
吉里小学校がオフィライン交
流会を開いた。震災後、同
町の住宅跡で建った「奇跡
の復興木」を市内小学校で
栽培してきた様子をもと
に実現。兩校の児童は互い
の学校やまちの自慢を報告
し、親睦を深めた。

「復興木」は震災から約
7カ月後、津波で基礎部分
だけを残して流された太細
い木で、基礎部分を
か、大阪名物や地域の歴史

市に贈られた。今年度は藤沢
市立小など4校が復興木を
栽培。同小が校庭に広い教
育田を整備していることな
どから、市の提案で今回の
交流会が実現した。

富田林↔岩手 児童交流

復興米が縁、オンラインで



岩手の吉田小とオンラインで交流する藤沢台小の児童ら=畠田林市

あすのこまみ
 (11日)
 13日12月9日
 (午前)

 月齢..... 8.4
 日出.... 7:08
 日入.... 17:06
 日出.... 12:23

文化を説明した。一方、星宮小は落葉舞作りや、舞などの趣事、地元の身の薬商、前川哲良漸氏の功績を紹介した。
ともに学校の規模、周囲環境などが多く異なること、に驚き、画面を通して互に理解を深めた。特に星宮小は「どんな料理をして、なんの料理で食べるの?」などの質問があり、強いて示していた。

藤沢台小は「米作りをして防火や建築の大要を知った。大庭町はきれいで海があつてうらやましい」とスマートを送り、吉野小は「大阪はたぶんなにおいしい食べ物、たとえば」と答えた。

コロナ禍今こそ支え合い

困窮学生に
食材を提供

JJA大阪南から
四天王寺大・短大

【大阪南】JJA大阪

南は15日、四天王寺大
学・四天王寺大学短期
大学部に「奇跡の復興
米」150kg、菅内産
米を使用した「アルフ
アーミー」1000個、
農産物直売所「あすか
てくるで」の農産物2
00kgを贈呈した。

同大学では、新型コ
ロナウイルス感染症拡
大に伴い、アルバイト
の収入や仕送りが減つ



▲ 目録と復興米を受け取る四天王寺大
学の岩尾学長(左)と学生代表の兵藤さん
@、JJAの内本組合長▶池田市社会福
祉協議会の和佐義顕会長(右)とJJA大阪
北部の北中裕司常務



日本農業新聞記事

て困窮する学生を支援
しようと、無償提供す
る食料品の寄付を呼び
掛けていた。これを受
け、同JJAは支援を決
定した。贈呈式は羽曳野市の
同大学で行われ、JA
の内本組合長が同
大学の岩尾洋学長に食
料品の目録を手渡し
た。また、経営学部經
営学科企業経営専攻の
兵藤太郎さんが学生を
代表して、感謝の言葉
を述べた。支援物資は
15~21日(土・日曜日
除く)に、キャンパス内
で希望者に配られる。
内本組合長は「コロ

ナ禍で経済的に影響を
受けた学生さんを少し
でもサポートできれば
と思い、支援させてい
ただく。今後も大学と
連携を深め、協力して
いきたい」と話した。

特産米使用
おかゆ寄贈

JJA大阪北部
池田市社協へ

【大阪北部】新型コ
ロナウイルスの影響を
受けた市民などの食材
支援に役立ててもらお
うと、JJA大阪北部は
7月上旬、池田市社会
福祉協議会へ特産米

栽培委員会による田植え作業の説明と圃場
の見学等を実施し、地元小学生ら約60人
が参加しました。この田植えは、今年で
8年目となり、地元市民団体や青壮年部
の協力で栽培を行い、「震災を風化させ
ず、次世代にも伝えた」という思いと
食農や防災への意識も高めてもらうため
の取り組みとして行っています。

子の成長を食で支援

JJA大阪南青壮年部



園職員へ農産物を手渡すJJA大阪南青壮年部員
(24日、大阪府羽曳野市で)

同青壮年部の南信宏部長
は「今後も支援活動を継続
し、子どもたちに元気を与
えたい」と語った。

(大阪南)

日本農業新聞記事

復興米の田植作業を見学(喜志小学校)

6月8日、当JJAと富田林市「岩手県
大槌町奇跡の復興米」栽培委員会は、復

興米の田植えを行いました。毎年地元小

学生らによる田植作業を行っています
が、新型コロナウイルスの蔓延状況によ

り、児童による田植え作業は中止となり、
栽培委員会による田植作業の説明と圃場

が参加しました。この田植えは、今年で
8年目となり、地元市民団体や青壮年部

の協力で栽培を行い、「震災を風化させ
ず、次世代にも伝えた」という思いと
食農や防災への意識も高めてもらうため



JJA大阪南広報誌「はばたき」7月号

◆◆テレビ取材を受けました◆◆

9月21日13時から14時に読売テレビのニュース素材として取材を受けた。
同日の夕方、東北ローカルのニュースで使用された。
以下、ネット上にアップされた読売テレビサイトのニュース情報。



10年前の東日本大震災の後にがれきの中から見つかったコメの稻刈りが21日、大阪・富田林市で行われた。

「奇跡の復興米」と呼ばれるコメは、2011年の東日本大震災で甚大な被害を受けた岩手県大槌町で、がれきの中から見つかった種もみで作られた米。大槌町との絆を育む富田林市の市民団体が、震災を風化させないとの思いから譲り受け、毎年、育てている。

今年6月、富田林市の小学生らが植えた稻穂が実り、稻刈りのシーズンを迎えたが、今年は新型コロナの影響で一部の田んぼでは小学生は参加せず、農家の人たちが収穫した。

コメはふるさと・大槌町のほか、同じく震災から復興の道を歩む熊本県益城町などにも贈られる。

動物たちの出産予定があり、寝床に使用されるそうです

